Q1 平成27年度予算 特徴ある施策等について

加藤良治 議員

イベント開催について

問 産業課では、新しい観光協会を立ち上げ活動しているが、その中で、中津川の栗きんとんと八百津の栗きんとんとの食べ比べなど、かも1グランプリのようなイベントを開催されてはいかがか。

答（田口産業課長）栗きんとんはこの地方を代表する名産品であることは、間違いありません。栗きんとんをPRするための方策として、議員ご提案の「栗きんとん食べ比べグランプリ」の開催は、ユニークなご提案だと思います。

可茂地域活性化委員会が主催している、かも1グランプリの開催は、例年5月の初旬に行われております。

しかし、このかも1グランプリでは、栗きんとんの時期と外れるため、栗きんとんの食べ比べを行うには、秋になってから、恵那市や中津川市の協力を頂いて開催するしかありません。

今後、八百津町内の和菓子組合や、恵那市及び中津川市の観光協会と実現が可能か協議させていただきます。

人口減少対策等について

問 「このまま放置すると、消滅する可能性の高い自治体」として、八百津町は岐阜県でも高い確率で示されている。

当議会としても、昨年9月以降、「少子化対策・議員全員協議会」として、様々な課題を掘り起こし、調査・協議を継続してきた。

人口減少の要因は様々であるが、ここでは、結婚適齢期や子育て世代と、転出者や移住者など現状把握や、先駆的活性策の事例検討など、町民が参画してこの課題に対処する仕組みなど検討している案はあるかどうか伺う。

次に、移住者対策について伺う。総務省の世論調査によると、都市部の若者や定年後の世代が、機会があれば田舎に移住してみたいという調査結果が出ている。

そこで、地域に眠っている資源、「空き家等」を有効活用できるようにするための行政の支援策は何か。

最後に、子どもの貧困対策について伺う。国では、平成27年度に向けて「子どもの貧困対策大綱」が示されている。ここでは、「ひとり親家庭」の支援策について伺う。

様々な助成制度があるが、概ね国や県の所管となっている。八百津町において、ひとり親家庭の実態を把握しておられるのか、という疑問が生まれた。近隣の市町村と比べると「ひとり親交流会」が当町にはないと感じている。悩みを一人で抱え込んでしまっては大問題であり、岐阜県下では「ワールドカフェ」という手法を活用して、交流会を通じながら、共通の課題やひとり親に限定された課題を読み取ることで、将来の八百津町独自の支援策を検討するうえで有効と考えるが、執行部の考えを伺う。

答（青山総務課長）未婚者の増加や晩婚化が人口減少・少子化の一つの要因となっていることから、子育て支援と同様、婚活支援を社会全体で解決すべき課題と捉え、当町でも今年度から国の地域少子化対策強化交付金を受けまして、結婚相談所を開設いたしました。これまでに昼と夜に計4回実施してきましたが、毎回数名の方が相談に来ていただき、順次登録申込をしていただいております。10月からは岐阜県が構築しますシステムへの登録を行い、広域的な出会いをサポートできるよう進めてまいります。

また、もう一つ進めていきたいのが、総務省が進めております地域おこし協力隊事業であります。これは、人口減少や地域力停滞の対策として、近年近隣の町村を始め、各地で募集され、その活躍ぶりが注目されるとともに地域での定住や定着が図られているところであります。当町といたしましても、この事業には積極的に取り組んでまいりたいということで、現在担当課において調査研究しているところであります。

次に、移住者対策としての空き家の有効活用策ですが、政府は来年度、地方の人口減少対策の柱の一つとして、都会から地方への移住を促す新規事業を打ち出す見込みでありまして、空き家情報や職場などの求人情報、医療費助成制度や就学支援策などの情報を集約してデータベース化し、希望者がインターネット上で調べたり比較したりできるような仕組みを整え、また移住の相談に乗るコーディネーターを置くなど、ワンストップサービス化を図るよう各種の新制度を来年度予算の概算要求に盛り込んでおります。このため、当町といたしましても、空き家に関する情報を国土交通省に提供していきたいと考えておりますし、当町の空き家バンク事業を見直し、不動産業者との連携や空き家情報提供者の掘り起こしをいかに行っていくかなど、課題を解決してよりよい空き家バンク制度を構築していきたいと考えております。

総務省の過疎地域等自立活性化推進交付金事業のうち、過疎地域集落再編整備事業の定住促進空き家活用事業などを利用して、改修等を行ったり、地域の交流拠点としての活用を考えるなど、具体的な施策を検討してまいりたいと考えております。

最後のご質問で、ひとり親家庭の支援策として「ワールドカフェ」という手法を活用した交流会を、というご提案ですが、八百津町には福祉センター「夢広場ゆうゆう」があります。子育てに関する悩みや他の親子の方とのいろいろな交流、なかでも「ママカフェ」というみんなでおしゃべりを楽しむ機会があります。また、福祉センター1階で行われている「ホッとカフェ」など世代を超えた交流もできる機会が設けられています。

八百津町では他にも社会福祉協議会が実施しているひとり親家庭を対象とした「仲よし親子の集い」という交流の場もあります。色々な機会や交流を通じて一人で抱え込まず、つながりを築いていただきたいと思います。

問 八百津町のここ数年の出生数は、平均すると約70名前後にとどまっている。全町民総参加で子ども達の成長を見守り支援するという意味において、2つの祝い金制度の創設について考えを伺う。

以前、第3子に対し10万円の